

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
第2章 1 京都がリードする文化芸術のまちづくり～五つの京都先行プロジェクト～			
1	新規	国立京都伝統芸能文化センター(仮称)の整備に向けた取組	<p>(ア)国立京都伝統芸能文化センター(仮称)の整備 19、20年度の調査研究の結果を踏まえ、大学、既存関連機関・施設等との当面の連携を含めた現実的な方策について検討 22年度の国家予算要望に一項目として記載</p> <p>(イ)伝統芸能文化センターモデル事業「京都創生座」の実施 19～22年度に、計5回の「京都創生座」公演を行った。 ・第5回京都創生座(22年9月4日、京都会館第二ホール)</p>
2	新規	まち全体を舞台にした「時を超え光り輝く京都・景観コンサート」(仮称)等の取組	<p>○景観コンサート(京都文化祭典等において、当初想定「景観コンサート」に相当する事業を実施した。) ・21年度、京都文化祭典「京の華舞台」において、叡の宴「風趣の華」(知恩院)(10月16日)、武の宴「夢幻の華」(西本願寺)(10月24日)、参の宴「小粋の華」(弥栄会館)(10月31日)を開催 ・20年度、二条城お城まつりに対して「上森祥平チェロの調べ」(10月5日)を、また、京都文化祭典「京の華舞台」において、武の宴「融」「源氏供養」(二条城)(9月27、28日)を開催 (西本願寺、二条城は「京都市眺望景観創生条例」に定められた38箇所眺望景観保全地域の一つ)</p> <p>○源氏物語千年紀事業(20年度) ・源氏物語千年紀委員会を府、市、商工会議所等の連携により設置し、各種イベントを実施 (源氏物語千年紀委員会は、平成20年関西西元気文化圏賞特別賞を受賞) 【源氏千年紀委員会主催事業】 ・「平安王朝の夜」再現(20年10月15、16日、11月10、11日) ほか 【文化市民局主催事業】 ・源氏物語千年紀記念事業「源氏夢舞台」(20年10月2、3日) ほか (能、狂言、韓国伝統舞踊の公演。会場:下鴨神社(眺望景観保全地域の一つ)) 【京都アスニー主催事業】 ・源氏物語千年紀連続企画(伝統芸能等の公演とシンポジウム)(20年4～9月) ほか 【上京区役所主催事業】 ・平安宮リレー講習会・史跡散策(20年5月31日～7月12日) ほか</p>
3	新規	文化芸術による地域のまちづくり推進事業	<p>(ア)文化芸術による地域のまちづくりモデル事業(19～21年度) ・「高瀬川桜まつり」 ・「木屋町アートステージ」 ・「立誠寄席」 ・「高瀬川夏まつり」 ・「木屋町クラシック」 ・演劇公演 ・「まなびや2009」 ・「ART UNIV.(芸術系大学作品展)」 ・「りっせいキネマフェスタ」</p> <p>(イ)文化芸術による地域のまちづくり活動の支援 ・(ア)のモデル事業の実施状況、成果を踏まえ、検討予定</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
4		「ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業」等の取組	京都で活躍する優れた芸術家を派遣し、子どもたちが文化芸術の「ほんもの」の魅力に触れる機会を創出するため、19～21年度に引き続き、22年9月から順次とくべつ授業を実施 (22年度は、15小学校、1総合支援学校、1保育所、1幼稚園、1児童館の19箇所で開催予定) (19年度22回、20年度31回、21年度27回実施)
5	新規	子どもたちが文化芸術を鑑賞し、体験するきっかけづくり	(ア)子ども はじめての感動応援ステージ 子どもたちに、優れた文化芸術の「ほんもの」の魅力に触れる機会を提供するため、劇団四季の協力を得て、子ども舞台芸術鑑賞支援事業「子ども感動応援ステージ」を実施 「赤毛のアン」(20年9月23、27、28日) 申込数:449名 「夢から醒めた夢」(21年2月1、7日) 申込数:272名 「美女と野獣」(21年8月9、13、22、23日 ※22日は2公演) 申込数:1,684名 「クレーギー・フォー・ユー」(22年8月7、11、21、29日 ※21日は2公演) 申込数:870名  (イ)子どものための暮らしの文化体験講座 21年度に「子ども京町家体験ツアー」を実施  (ウ)様々な文化に子どもが親しみ、又は親子で楽しむ機会の拡大 ・芸術センター、美術館等において各種ワークショップ等を実施 芸術センター:夏休み企画「幻ノ進化論-Saltationism」におけるワークショップ(22年8月)等 美術館:ワークショップ「和の美・きものデザインにチャレンジ」(22年10月)等
6	新規	若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり	○21年度:関係者へのヒアリングを通じたニーズ調査、施設の視察等を実施 22年度:外部の専門家に調査を委託し事業構想を検討、芸術系大学でのアンケート調査、地元への説明会等を実施 23年度に施設整備等、24年度から本格開始の予定  ○文化芸術による地域のまちづくりモデル事業の中で、立誠小学校跡地での「ART UNIV.(芸術系大学作品展)」等を開催
7		京都芸術センター事業等による芸術家の育成・活動支援	○芸術センターにおいて制作・発表支援事業をはじめ、各種事業を実施  ○芸術文化特別奨励制度を実施(23年度奨励者を22年4～7月に募集。応募77件→奨励2件(予定))
8	新規	京都文化パートナー1万人構想に向けた取組	(ア)文化パートナー1万人登録の促進 ・文化ボランティア制度を運営中(登録者704名、22年度派遣事業数50事業(22年10月末現在)、21年度派遣事業数65事業) ・文化パートナーの制度の在り方等について検討中 ・キャンパス文化パートナーズ制度について、市内5大学を勧誘するなど、取組を推進  (イ)京都文化パートナーズショップの募集・拡大 ・文化パートナーの制度の在り方と合わせて検討中

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
第2章 2 文化芸術都市創生のための総合的な施策			
9	新規	地域の中での「暮らしの文化」の再発見・再認識の促進	第26回国民文化祭・京都2011において「京の暮らしの文化展」を実施するため事業内容を検討中
10	新規	暮らしの文化普及・啓発冊子の作成・発行	未実施
11	新規	暮らしの文化を普及・啓発するシンポジウム等の開催	文化ボランティアによる京都くらしの文化「衣」・「食」・「住」体験講座(20年7月13, 24, 26日) ゆかたの着付けとまちの歴史をたどる散策, 昔ながらの料理の知恵を学ぶ「おぼんざい教室」, 京町家の生活様式を考える町家見学ツアーなど, 文化ボランティアの協力を得て, 「暮らしの文化」を見つめ直す事業を実施
12	新規	「暮らしの文化顕彰制度」(仮称)の創設	未実施
13		京都文化祭典の開催	<p>○22年度:「市民ふれあいステージ」, 「京都の秋 音楽祭」, 「京都映画祭」, 各種協賛事業も含め合計223件の事業を実施</p> <p>○21年度:「市民ふれあいステージ」, 「京の華舞台」, 「京都の秋 音楽祭」, 各種協賛事業も含め合計243件の事業を実施</p> <p>○20年度:「市民ふれあいステージ」, 「京の華舞台」, 「京都の秋 音楽祭」, 「京都映画祭」, 各種協賛事業も含め合計204件の事業を実施</p> <p>○20年度から「市民ふれあいステージ」を梅小路公園で「グリーンフェア」と共同開催するなど, 新たな試みを行い, 更なる賑わいづくりと新たな観客層の開拓に努めている。</p>
14		本市の文化芸術関係施設における各種事業の推進	<p>○京都市美術館におけるコレクション展や, 共催展の開催等, 京都コンサートホールにおける「京都の秋 音楽祭」等の開催, 地域文化会館における演劇やコンサート等の共催事業の実施などを進めている。</p> <p>○京都市美術館におけるアートフレンド事業, 京都コンサートホールにおけるシニア制度やスチューデント制度など, 多くの方々に気軽に文化芸術を楽しんでもらえる機会を提供</p>
15	新規	「まちなかどこでもギャラリー・コンサート推進事業」(仮称)等の取組	<p>22年度から, 地下鉄駅構内において, サブウェイパフォーマー事業を実施</p> <p>文化芸術による地域のまちづくりモデル事業の中で, 元立誠小学校エントランスで「木屋町アートステージ」を開催</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での 新規/非新規	施策名	取組状況
16	新規	国民文化祭の京都開催	<p>○22年10月、1年前フェスティバルを開催(府市共催)</p> <p>○京都府実行委員会代表副会長に京都市長、副会長に京都市会議長、企画委員に細見副市長、特別委員に京都市会副議長・京都市会各会派代表が参画(会長;知事)(20年10月17日京都府実行委員会設立)</p> <p>○平成23年に京都府下で開催される「第26回国民文化祭・京都2011」に向け、企画委員会における事業の検討及び機運醸成を図るPR事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会開催実績           <ul style="list-style-type: none"> <li>第26回国民文化祭京都市実行委員会設立総会及び第1回総会(21年5月14日)</li> <li>吹奏楽の祭典企画委員会(21年9月11日)</li> <li>連句の祭典企画委員会(21年10月1日)</li> <li>合唱の祭典企画委員会(21年10月19日)</li> <li>邦楽の祭典企画委員会(21年11月12日)</li> <li>いけばなの世界展企画委員会(21年11月26日) ほか多数</li> </ul> </li> <li>・PR事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>京都ハンナリーズ・ブレイズゲームにおける国文祭PR(21年9月5日)</li> <li>第60回華道京展における国文祭PR(21年9月10~15日)</li> <li>「モード・ジャポニズムー浮世絵と日本の髪型ー」における国文祭PR(21年10月14, 16日)</li> <li>府主催・国文祭開催2年前イベント「京都・ふるさと文化スクエア2009」への市ブースの出展(21年11月3日)</li> </ul> </li> </ul>
17		「より一層市民に愛される京響」をめざす取組の推進	<p>○21年度から事業運営のみを(財)京都市音楽芸術文化振興財団に移管</p> <p>○「定期演奏会」のほか、「みんなのコンサート」、「訪問演奏会」、「音楽相談」、「練習風景公開事業」など実施</p> <p>○20年4月、大友直人氏に代わって、広上淳一氏が常任指揮者に就任</p> <p>○「ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業」において京響から講師を派遣</p> <p>○芸術センターにおいて Kyo × Kyo Today vol.1 を開催</p>
18	新規	世界的に注目されつつあるマンガ文化の振興	<p>○22年9月、「文化庁メディア芸術祭京都展」を、京都芸術センターとともに開催</p> <p>○「関西文化の日」(11月3日)の取組に京都国際マンガミュージアムが参加</p> <p>○第9回国際マンガサミットを開催(会場:国立京都国際会館, 京都国際マンガミュージアム)(20年9月6, 7日実施)</p> <p>○欧米、アジア各国・地域からのマスコミ、旅行業者等の取材、視察の招致、受入(通年)</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
19		文化芸術に関する生涯学習の推進	<p>○京都アスニー主催「古典の日記念事業」 京都に根ざした古典文学等を取り上げる講座等を実施するとともに、平安京復元模型等に加え、平安時代のくらしや建築物を再現した「古典の日記念 京都市平安京創生館」を設置し、より多くの市民に、古典に親しんでいただいている。 ・「古典の日記念 京都市平安京創生館」のリニューアル開館(21年11月1日) ・古典の日記念事業「古典の祭典Ⅱ」(講演会・シンポジウム・コンサート等)(21年11月1日) ・その他、ゴールデン・エイジ・アカデミーやアスニー・セミナーなどで、「古典の日」関連企画として、講座、講演を開催</p> <p>○京都アスニー主催「源氏物語千年紀記念事業」 源氏物語をはじめとする古典文学、平安時代、平安京を中心とした歴史・京都学の他、日本の伝統文化を学習することができる事業・講座を実施するとともに、源氏物語の舞台となった平安京を身近に体感し学ぶことのできる「京都市平安京創生館」を設置している。市民が、より広く、深く古典に親しみ学ぶことを願い、講演会、演奏会、展示会等の多彩な源氏物語千年紀記念事業を開催した。 ・源氏物語千年紀連続企画(伝統芸能等の公演とシンポジウム)(20年4～9月) ・源氏物語特別事業「古典の祭典」(講演会、演奏会、着付実演等)(20年11月1, 2日) ・記念特別展「源氏物語と平安京」(20年10月18日～11月17日)</p> <p>○アスニーコンサート 京都市交響楽団の楽員や民間の演奏家等との連携のもと、市民が一流のクラシック音楽を身近に定期的に触れることができる生涯学習事業の一環として、「アスニーコンサート」を開催(毎月1回土曜日開催)(京響や京都市芸術新人賞受賞者が出演)</p> <p>○京(みやこ)カレッジ 京都市と(財)大学コンソーシアム京都が協働で実施している生涯学習事業「京カレッジ」において、京都の歴史や文化を学ぶことができる「京都力養成コース」をはじめ、「京都を探る」、「歴史と文化に触れる」、「美の世界に触れる」等のテーマ別科目の中で文化芸術に係る各種講座を開講している。</p>
20		文化芸術団体との連携による鑑賞・参加型事業の推進	京都市芸術文化協会との共催により、「市民邦楽会」、「秋の合同パレエ祭」、「CRIA展」、「市民邦舞会」を開催
21		文化芸術施策や施設における「ユニバーサルデザイン」の推進	<p>○身体の不自由な方等が文化芸術を楽しめるよう施設の整備や、人的補助にこれまでから努めている。</p> <p>○第6回京都映画祭において、日本語字幕、イヤホーンを使用した場面説明によるユニバーサル上映(バリアフリー上映)を実施。上映後に行われるゲストトークでは、手話通訳者を配置</p> <p>○ユニバーサル上映の機会を増やすとともに、ユニバーサルデザインに対する市民の理解を深めていただくために、映画の自主上映を行う民間の団体や個人に対する補助制度、「みやこユニバーサル上映補助金」を20年10月に創設(補助金を活用したユニバーサル上映実績) 20年度 「いれずみ半太郎」(10月11日) ほか2件 21年度 「あぶあぶの奇跡」(7月12日) ほか5件 22年度 「第7回京都映画祭」(10月6～11日) ほか7件</p> <p>○市主催の催しについて、ユニバーサル上映の推進を図るため、本市職員を対象とした研修会として、実際にユニバーサル上映を体験する試写会を実施(20年7月22日)</p>
22		子どものための各種体験教室等の推進	京都市芸術文化協会との共催により、「小学生のための芸術体験教室」、「夏休み邦楽体験教室」、「夏休み能楽体験教室」、「冬休み邦舞体験教室」を実施

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
23		芸術系の市立高等学校等における特色ある文化芸術教育の推進	<p>○文化芸術教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立銅駝美術工芸高校全生徒の作品を展示・発表する「美工作品展」を京都市美術館で開催(21年度は第30回を10月8～11日に開催)</li> <li>・市立音楽高校では「オーケストラ定期演奏会」を京都コンサートホールにて開催(21年度は第36回を7月25日に開催)</li> <li>・文化芸術教育推進のための専門備品を整備, 芸術顧問による特別レッスン</li> </ul> <p>○音楽高校移転整備事業</p> <p>元城巽中学校跡地に新校舎等(音楽高校施設, 音楽ホール, 市立芸術大学サテライト施設, 銅駝美術工芸高校や美術関係者等の市民開放型ギャラリー, 京都市少年合唱団等の活動拠点等)を建設し, 22年4月に移転・開校。京都堀川音楽高等学校と名称を改めた。</p>
24		ジュニア京都検定の推進	<p>○「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」名人を認定, うち7名を「ジュニア京都観光大使」に任命(22年8月4日) (21年度は, 名人230名認定, うち7名を大使に任命)</p> <p>○ジュニア京都観光大使及びジュニア京都検定名人を下鴨神社の蹴鞠初めの観覧席に招待(21年1月4日)</p> <p>○「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」21年度基礎コース, 発展コース実施(21年10～11月)</p>
25		子どもの音楽文化の振興・普及を図る取組の推進	<p>○「小学生のための音楽鑑賞教室」</p> <p>京都市内の小学校4～6年生を対象に音楽に対する感性を育むとともに, 豊かな情操を養うこと等を目的に京都市交響楽団の演奏を鑑賞(22年1月25～29日)</p> <p>○子どもと文化, 自然環境との関わりをテーマに「子どもの文化フォーラム」(東部文化会館)開催(21年6月7日)</p> <p>○芸術センター事業「音の生まれる時-松下敏幸レクチャー&amp;コンサート-」にて, 小中高校生を対象に弦楽器製作者の工房を再現したオープンスタジオを設置(20年11月1日)</p> <p>○「京都の秋 音楽祭 ミュージック・フリー」に京都市ジュニアオーケストラ出演(20年10月26日)</p> <p>○未来の鑑賞者の育成を図る「青少年のためのコンサート」開催(20年9月20日)</p> <p>○京都市立芸術大学による「京都子どもの音楽教室」を年間50回実施(毎週土曜日)</p>
26		青少年の文化芸術活動の促進	<p>○東山青少年活動センターで「演劇ビギナーズユニット」を実施</p> <p>演劇初心者対象の演劇セミナー, 修了公演の実施</p> <p>○ステージサポートプランの実施</p> <p>演劇活動の成果を発表する場を提供, 7グループの公演を実施</p> <p>○山科青少年活動センターでの「おはやし隊」など, 青少年の文化芸術活動の推進を図る事業を行っている。(通年)</p> <p>○「ライブキッズ」の開催</p> <p>青少年による音楽とダンスのイベントの実施</p>
27		市民や観光客に, 京都の伝統的な文化芸術に身近に触れていただく機会の提供	<p>○「市民寄席」を年5回, 「市民狂言会」を年4回開催</p> <p>○各関係団体との連携により, 「京都新能」(22年6月1, 2日), 「市民邦楽会」(22年9月12日), 「市民邦舞会」(23年2月(予定)), 「源氏夢舞台」(20年10月2, 3日), 「源氏華舞台」(20年11月4, 5日)を開催</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
28		文化芸術拠点施設における伝統的な文化芸術継承・創造の取組の推進	芸術センターにおいて、「明倫茶会」、「継ぐこと・伝えること」を実施
29		子どもたちへの伝統的な文化芸術継承の取組の促進	○京都市立芸術大学による出前授業(22年度は御所南小学校、衣笠小学校) ○文化庁の「伝統文化子ども教室」事業について、21年度、京都市内で、(財)ユースサービス協会主催の「下京子ども邦楽教室」を含めて30団体が採択(21年度は38団体、20年度は31団体) ○「下京子ども邦楽教室」は、21年5月から毎月2回実施
30		伝統的な文化芸術の研究や文化創造の機能の推進	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターにおいて、市民向け公開セミナー(約月1回)や、市民向け公開講座等の取組を実施
31		伝統的な花街の文化の継承	(財)京都伝統伎芸振興財団に京都市から事業助成を行い、伝統伎芸の後継者育成、五花街合同伝統芸能特別公演(22年6月19、20日開催)等の支援を行っている。
32	新規	芸術家とメセナ企業との出会い促進「アートシンデレラストーリー創出事業」(仮称)等の実施	未実施
33		より効果的な顕彰制度の在り方の検討	大都市文化行政会議において政令指定都市で実施している文化芸術に関する顕彰制度について議題が提示され、情報交換を行った(20年10月23日)。
34		助成金等の情報のより効果的な発信	本市ホームページに芸術文化振興基金による芸術家助成制度の情報を掲載
35		芸術活動へのきめ細かな支援	助成金等内定者資金融資制度を実施。22年度(10月末現在)実績15件、21年度実績15件、20年度実績13件
36	新規	文化芸術による地域のまちづくりの取組の普及・促進	22年3月、「文化芸術による地域のまちづくり事例集」を作成・発行
37		京都市景観・まちづくりセンター等との連携の推進	○22年度、歩いて暮らせるまちづくり推進会議の「まちなかを歩く日2010」に対し、景観・まちづくりセンターと連携し、支援 ○西竹の里タウンハウス「地域文化再発見のための写真展」に対し、景観・まちづくりセンターと連携し、支援 ○立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業の実施に当たり、景観・まちづくりセンターと連携を図っている。
38		各区の個性を生かした各種文化関係事業の推進	各区において、個性あふれる区づくり推進事業の中で、区民美術展、区民陶芸教室、区民文化フォーラム、区民茶会、区民ふれあい文化財鑑賞会などを実施

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
39		芸術家等の活動を地域に根付かせ、地域で応援する環境づくり	地域文化会館におけるフランチャイズ(活動拠点)化事業を実施(22年度10団体、21年度5団体、20年度5団体) なお、23年度以降については、指定管理者の自主事業として実施する予定
40		アーティスト・イン・レジデンス事業や招聘アーティストの作品展等の推進	芸術センターにおいて「アーティスト・イン・レジデンス」事業を実施。23年度応募 件→採用2件、22年度応募155件→採用2件、21年度応募98件→採用2件
41		留学生による文化芸術交流の推進	○京都市立芸術大学において学生の交換派遣を行っている。 ○京都市立芸術大学留学生による「京都市立芸術大学留学生展」を芸術センターで開催(22年度は、第21回を22年12月1～7日に開催)
42		国際交流に係る関係機関等との連携の推進	○国際交流会館20周年記念事業の一環として、国際交流基金京都支部と共催で「日本文化を映像で鑑賞しよう(英語ナレーション)」を3箇月にわたって開催 ○京都文化コンベンションビューロー会員に、本市文化芸術事業の開催内容を情報提供 ○芸術センター事業でイタリア・クレモナ在住の弦楽器制作者のレクチャー等を実施する、「音の生まれる時間」(20年11月2、3日開催)に、イタリア文化会館から協賛 ○芸術センター事業「トラディショナル・シアター・トレーニング」を国際交流基金京都支部と共催 ○芸術センターが、東アジア文化振興機関交流会議(主催:韓国仁川市文化財団)に参加
43		国際交流に取り組む市民団体等との連携の推進	○22年度、京都・グアダハラ姉妹都市提携30周年記念事業において、①相撲を通じた交流事業の実行委員会に市民団体が参加、②市民団体による文化事業の開催支援 ○京都・ボストン姉妹都市提携50周年記念事業における取組 ・「モードジャポニズムー浮世絵と日本の髪型ー」(日本髪の髪結過程のデモンストレーション等)を市民団体も参画した実行委員会で開催 ・市民団体による日本の伝統的な遊びや盆踊り等を紹介する文化体験事業の開催支援 ○市民団体が主催したフィレンツェ市民演劇団による喜劇「マンドラーゴラ」の開催支援 ○外国人に書道や着付等を教える教室の開催など、日本文化を伝える活動を行う市民団体に文化ボランティアを派遣し、支援



京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
44		姉妹都市との文化交流事業の推進	<p>○22年度、京都・グアダハラ姉妹都市提携30周年記念事業を実施</p> <p>○京都・ボストン姉妹都市提携50周年記念事業における取組 ・「モードジャポニズム」(日本髪の変遷過程のデモンストレーション等)を市民団体も参画した実行委員会で開催 ・市民団体による日本の伝統的な遊びや盆踊り等を紹介する文化体験事業の開催支援</p> <p>○市民団体が主催したフィレンツェ市民演劇団による喜劇「マンドラーゴラ」の開催支援</p> <p>○京都市・パリ市姉妹都市盟約50周年・日仏交流150周年記念事業を実施 記念シンポジウム「月かげの交響～フランスと日本 京都とパリ～」を何有荘にて開催(20年9月14日) 「相國寺・金閣・銀閣名宝展—京都における禅と美術—」をパリ市立ブチパレ美術館で開催(20年10月16日～12月14日) 「芸術都市パリの100年展 ルノワール、セザンヌ、ユトリロの生きた街 1830—1930年」を京都市美術館にて開催(20年9月13日～11月3日) クレール・シュワン写真展を京都市国際交流会館で開催(20年7月1～10日、関西日仏学館主催、京都市共催) 京都市・パリ市姉妹都市盟約50周年・日仏交流150周年を記念して「京都工芸の精華」展を京都芸術センターで開催(20年10月27～31日、作家集団工芸京都主催、京都芸術センター共催)。同展はパリでも20年11月17日～12月6日に開催</p>
45		京都芸術文化情報リンク集の充実	京都芸術文化情報リンク集について掲載情報の充実を図っている。検索機能の付与など、更なる充実に向け検討中
46	新規	後援事業等の支援	本市後援事業について文化ボランティアを派遣するなどの支援を行っている。更なる支援策について検討中
47		障害のある方のための文化芸術情報発信の工夫	<p>○本市ホームページについてウェブアクセシビリティ対応としている。</p> <p>○点訳奉仕員及び音訳奉仕員を養成し、点字図書呼び録音図書の更なる充実を図っている。 (点訳図書:8,989タイトル(29,978冊)／録音図書:12,732タイトル(49,988冊)) ※21年3月31日現在。全て京都ライトハウス保有</p>
48		国際交流に係る関係機関等と連携した情報発信の推進	<p>○京都迎賓館を訪問する国公費に対して、府、商工会議所と共に京都文化の発信事業等を実施</p> <p>○文化庁「国際文化フォーラム」や「関西文化の日」の取組の情報発信について国際交流会館と連携</p>
49		「京都館」や海外情報拠点と連携した情報発信の推進	<p>○「京都創生座」東京公演(22年2月4日(予定))、「京都文化祭典」をはじめとする文化芸術事業の首都圏への情報発信等において、京都館と連携</p> <p>○京都市海外情報発信・収集拠点を通じて、京都ならではの文化体験等を世界に発信</p>
50		関西の関係団体等と連携した広域的な情報発信の推進	<p>○文化庁の「関西元気文化圏」サイトへの京都市内の文化情報の掲載や、関西広域機構を介した本市事業PR、「関西文化の日」の取組での本市関係施設の参加等の連携を図っている。</p> <p>○関西広域機構を構成する自治体の特色を生かした「関西文化ワークショップ」を開催(本市:邦楽のワークショップ等) 会場:元立誠小学校等 日時:22年8月17～31日</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での 新規/非新規	施策名	取組状況
51		マスメディアと連携した情報発信の推進	<p>○22年度、広報担当が持つ京都新聞テレビ欄下の枠で、京都創生座を宣伝</p> <p>○芸術文化特別奨励制度の募集情報を「ぴあ関西版」や「美術の窓」等に掲載</p> <p>○「京都文化祭典」「源氏夢舞台」等の事業PRをKBS京都、ケーブルテレビ、ラジオ等で放送</p> <p>○「文化芸術によるまちづくりモデル事業」について「ぴあ」「Lマガジン」等に掲載</p> <p>○無鄰菴、二条城をはじめとする所管施設について、旅行誌、建築誌等に掲載</p>
52		文化財の保存と活用の推進	<p>○文化財の指定・登録による保存や、埋蔵文化財の調査、指定・登録文化財の公開や、普及啓発等の取組を進めている。</p> <p>○京都芸術センター、京都国際マンガミュージアムが国の登録有形文化財に指定(20年7月)</p>
53	新規	地域文化財サポーター、地域文化財マネージャーの育成	<p>○みやこ文化財愛護委員の育成事業を実施するための実行委員会を、20年9月4日に、京都の文化財を守る会(ボランティア団体)及び(財)文化観光資源保護財団とともに設立</p> <p>○みやこ文化財愛護委員育成事業 埋蔵文化財関連講座 実践講座2回(20年10月18日, 11月8日) 文化財講座 2回(23年1~2月) 文化財公開講座 1回(21年3月) 地域文化財講座 講演会2回(22年1月12日, 3月25日) 見学会3回(21年2月18日, 3月10, 25日)</p> <p>○京都市文化財マネージャーの育成事業を実施するための実行委員会を、20年8月21日に、NPO法人古材文化の会及び(財)京都市景観・まちづくりセンターとともに設立した。</p> <p>○京都市文化財マネージャー育成事業 育成講座(21年1~7月, 22年1~7月) ブラッシュアップ講座(20年11月9, 15日, 21年11月7, 15日, 22年11月) 京都市文化財マネージャーへの登録126人(平成22年11月1日現在)</p>
54		地域文化遺産の保存と活用の促進	<p>○地元保存会との連携により史跡公園などの史跡の維持管理に努めることをはじめ、地域住民等との連携により地域文化遺産の保存・活用を進めている。</p> <p>○出土遺物の貸出しや考古資料館での展示などを実施</p>
55		子どもたちの文化遺産を大切に する意識を育む取組の 推進	<p>○(財)埋蔵文化財研究所が小学校5, 6年生, 中学生とその保護者を対象に「京都市考古資料館夏期教室」等の取組を実施(20年8月, 21年8月, 22年8月)</p> <p>○出土遺物の学校等への貸出を行っている。</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
56		元離宮二条城、無鄰菴の保存と活用	<p>○元離宮二条城の保存整備については、18年度から5箇年計画で取り組んでおり、劣化の進んでいる重要文化財二の丸御殿障壁画については、毎年7,600万円の予算をかけて本格修理を進めている。また、建造物等の施設についても、年間1億円の予算をかけ、東大手門、二之丸御殿、本丸御殿の耐震調査をはじめとする文化財建造物の保存修理や、庭園内の茶室、建仁寺垣、城内トイレ等の改修に取り組んでいる。</p> <p>21年度計画的整備事業の内訳                      (1)二之丸御殿・本丸御殿調査工事                      (2)本丸庭園現況調査                      (3)建仁寺垣改修                      (4)清流園茶室等改修                      (5)観覧ルート沿い石垣安定状況把握調査</p> <p>20年度計画的整備事業の内訳                      (1)文化財建造物・庭園・石垣等調査・年次計画策定の基礎調査                      (2)建仁寺垣改修                      (3)清流園茶室等改修                      (4)ピラカンサ生垣改修                      (5)東大手門・二之丸御殿調査工事                      (6)観覧ルート石垣影響樹木調査及び樹木伐採</p> <p>○無鄰菴の計画的な保存・整備を実施するため、整備検討委員会を開催し、保存管理計画及び整備基本計画の審議を行うとともに、庭園・建物等の調査や緊急修理を行っている。</p>
57		近代化遺産の活用	<p>○22年度、日本の近代化に大きな役割を果たした琵琶湖疏水について、その周辺の岡崎地域の調査を行うほか、大学との連携により近代庭園群の調査を実施</p> <p>○20年度、「関西文化の日」の取組に琵琶湖疏水記念館が参加し、施設をアピールした。</p> <p>○琵琶湖疏水分線である「哲学の道」の桜並木を保全する取組を行っている。</p> <p>○平成21年10月、琵琶湖疏水記念館は、20周年を記念し、リニューアルオープンした。</p> <p>○「近代化遺産全国一斉公開2008(20年10月1日～11月30日)」に京都芸術センター、京都国際マンガミュージアム、琵琶湖疏水蹴上インクライン、竹田火の見やぐらが参画し、一斉公開や展覧会等を実施</p>
58	新規	京都における新たな世界遺産の登録	<p>○祇園祭については、世界無形文化遺産登録を目指して基礎調査等を進めてきたところ、20年7月、文化庁がユネスコへ提案する国内候補の一つに「京都祇園祭の山鉾行事」が選ばれることが確定し、9月10日に京都市から文化庁へ必要資料を提出。21年9月、ユネスコの政府間委員会において無形文化遺産に登録された。その前後に、記念事業を実施した。(フォーラム21年7月22日、講演会・見学会21年7月23日、シンポジウム21年10月31日)</p> <p>○「世界遺産の追加登録に向けた調査・検討」については、21年度に引き続き調査・検討を進めている。</p>
59	新規	重要文化的景観の選定への取組の推進	<p><b>22年度に×から△へ</b></p> <p>京都創生策Ⅱに「重要文化的景観の選定への取組の推進」を掲げている。                      京都の近代化の象徴的地域である岡崎地区の文化的景観の保存を図るため、琵琶湖疏水関連施設や美術館などを範囲として、22年度、国の重要文化的景観選定に向けた調査を実施</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
60		美しく、京都らしい景観を守るための各種制度の効果的な運用	<p>国や本市独自の制度の運用により、美しい自然風景の保全と、京都らしい市街地景観の形成を図る取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美観地区等規制指導事務</li> <li>・姉小路界わい地区街なみ環境整備事業</li> <li>・伝統的建造物群保存等事業</li> <li>・屋外広告物等の規制・啓発等</li> <li>・市民共汗サポーターによる違反広告物簡易除去事業</li> <li>・京都創生・景観づくり事業(優良屋外広告物誘導事業, 優良屋外広告物デザイン助成, 景観審査会運営)</li> <li>・京町家実態調査</li> <li>・景観検証システムの構築</li> <li>・歴史的町並み再生事業(歴史的風致形成建造物, 景観重要建造物, 界わい景観建造物等への助成等)</li> <li>・風致地区, 自然風景保全地区規制指導等</li> <li>・京都市眺望景観創生条例の運用</li> <li>・違法開発監察事務</li> <li>・古都保存区域内等の規制・買収・補償等</li> <li>・特別緑地保全地区内の規制・買収・補償等</li> <li>・北白川丸山町緑地整備</li> <li>・三山森林景観保全・再生ガイドラインの作成</li> </ul>
61	新規	「時を超え光り輝く京都の景観づくり」の取組の推進	<p>○新景観政策を実施してから3年が経過し、市民、事業者、専門家の意見を踏まえ、政策全体を改めて点検することになった。22年度、進化する景観政策の素案を作成、市民のパブリックコメントの結果を踏まえ、22年11月市会で条例改正、23年4月の施行に向けて取り組んでいる。</p> <p>○平成17年7月に設置した「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」から、平成18年11月に本市の景観政策に関する最終答申を受けている。当該答申を踏まえ、平成19年9月から建物の高さやデザイン及び屋外広告物の規制等を全市的に見直した「新景観政策」を実施している(No.60の施策)。</p>
62		町家の保存・再生の取組	<p>○20、21年度に実施した京町家まちづくり調査の結果報告会を、22年度に開催。今後、京町家の保全・再生のための具体的な施策・取組を推進していく。</p> <p>○国や本市独自の制度を活用し、京町家等の伝統的な建造物の外観の修理・修景等に対する助成等を行うとともに、京都市景観・まちづくりセンターと連携し各種事業を実施するなど、京町家の保全・再生の取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的町並み再生事業(歴史的風致形成建造物, 景観重要建造物, 界わい景観建造物等への助成等)</li> <li>界わい景観整備地区や歴史的景観保全修景地区内にある建造物等の修理・修景に要する費用の一部を補助する。</li> <li>・伝統的建造物群保存等事業</li> <li>伝統的建造物群保存地区内において、建造物の修理・修景に要する費用の一部を補助する。</li> <li>・姉小路界わい地区街なみ環境整備事業</li> <li>国の補助事業を活用し、姉小路界わい地区において京町家等の修理・修景に要する費用の一部を助成する。</li> <li>・京町家実態調査</li> <li>旧市街地と旧街道沿いを中心に20、21年度に「京町家」の実態調査を実施(外観調査・アンケート調査)</li> <li>・不動産管理信託による京町家の活用策</li> <li>不動産管理信託を利用して、京町家を活用する仕組みにおいて、行政としての役割、支援・助成、取り組むべきことなどについて検証を行う。</li> <li>・京町家まちづくりファンドの運営</li> <li>寄付拡大に向けた検討調査、助成物件調査の実施</li> <li>京町家まちづくりファンド委員会の運営</li> <li>寄付促進事業の展開(パンフレットの作成、広告費等)</li> <li>京町家改修助成モデル事業の推進</li> </ul>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
63		文化芸術活動を支え、発表する場(拠点)の整備等	<p>○京都会館の再整備構想の策定に向け、21年度に京都会館の再整備基本構想素案を策定した。22年度も引き続き施設の機能向上や、法的規制、岡崎地域の活性化に資するあり方等についての検討を行っている。</p> <p>○岡崎地域活性化懇談会において、岡崎地域の文化施設等が連携して活気創出に取り組む方策を検討中</p> <p>○岡崎界隈のにぎわい創出のため、「心ふれあうオープンカフェ&amp;手作りアートギャラリー」開催(春2日間、秋2日間)</p>
64		文化芸術関連機関・施設の交流、連携	<p>○庁内関係部局により、文化芸術関係機関・施設の交流、連携を検討する会議を開催</p> <p>(参考)21年度、京都市美術館、京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館で「京都市内4館連携協力協議会」発足</p>
65	新規	文化芸術インターンシップ制度の創設	<p>京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学等と戦略的大学連携支援プログラムを共同で実施しており(21年10月、共同事業契約締結)、その中で検討している。</p>
66	新規	京都市立芸術大学における市民との積極的な交流や情報発信の推進	<p>○22年4月に移転・開校した音楽高校のギャラリー棟に、市立芸術大学のサテライト施設(美術作品展示室、事務室等)としてギャラリーを設置</p> <p>○小学校の児童を対象とした出前授業のほか、教育研究の成果を市民の身近な場所で発表                  展覧会:芸術大学作品展、四条ストリートギャラリーなどを開催                  演奏会:定期演奏会をはじめとしたコンサートを年間16回開催</p> <p>○小学校、高校との連携による合同展覧会、京都アスニーでの企画展、16回の市民を対象としたコンサートなど、教育研究の成果を市民の身近な場所で発表</p>
67		文化芸術施策推進に際しての芸術系大学等との連携の推進	<p>○「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業において、市内の芸術系大学の学生に対してアンケート調査を実施</p> <p>○(財)大学コンソーシアム京都に参画する芸術系6大学とともに、学生デザイン作品展「いとへん展」を開催</p> <p>○京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学等と、戦略的大学連携支援プログラム「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」を共同で実施(21年10月、共同事業契約締結)</p> <p>○京都文化芸術都市創生計画の推進に関して、芸術系大学に周知し、協力、連携を依頼</p> <p>○立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業において、京都で学ぶ芸術系大学10大学の学生の合同作品展「ART UNIV.(芸術系大学作品展)」を開催</p> <p>○京都造形芸術大学の協力のもと、「二条城ライトアップ事業」を実施(15年度～)</p>
68		京都が誇る大学の集積の活用	<p>○京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学等と、戦略的大学連携支援プログラム「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」を共同で実施(21年10月、共同事業契約締結)</p> <p>○京(みやこ)カレッジ                  京都市と(財)大学コンソーシアム京都が協働で実施している生涯学習事業「京(みやこ)カレッジ」において、京都の歴史や文化を学ぶことができる「京都力養成コース」をはじめ、「京都を探る」、「歴史と文化に触れる」、「美の世界に触れる」などのテーマ別科目の中で文化芸術に係る各種講座を開講している。</p> <p>○京都会館の再整備構想の策定に向けた取組に際し、立命館大学と連携してアンケート調査や分析を実施</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
69		文化芸術や学術の交流を図る各種の取組との連携	<p>○文化庁「国際文化フォーラム」(テーマ:文化の多様性)(21年11月13~29日)を開催(20年度、京都では、座談会Ⅱ「古典に生きる」(20年11月9日、宇治市文化センター)を開催)</p> <p>○平成15年から5年間にわたり開催した「京都文化会議」(テーマ:地球化時代のこころを求めて)の取組成果として、20年度に記念誌を発行</p>
70		新京都市観光振興推進計画に基づく取組の推進	<p>○市民による京都の魅力再発見事業など、「未来・京都観光振興計画2010+5」に掲げた取組を推進</p> <p>○22年3月、新たに「未来・京都観光振興計画2010+5」を策定</p> <p>○二条城のライトアップや京都文化祭典の開催など「新京都市観光振興推進計画」に掲げた取組を推進</p>
71		文化情報と観光情報を連携させた効果的な情報発信の推進	<p>○22年4月、「京都市観光文化情報システム」を京都観光オフィシャルサイト「京都観光Navi」として全面リニューアル</p> <p>○ホームページによる情報発信や事業の広報において各種連携を進めている。</p>
72		京都の映画文化や映像文化の振興	<p>○「京都市フィルム・オフィス アドバイザー会議」開催(22年11月)</p> <p>○京都市フィルム・オフィスHPの大幅充実のため、ロケ地実地調査(21年度実施)で収集した情報を反映し、充実したサイトを構築(22年7月)</p> <p>○京都ならではの文化や人の紹介、京都で撮影された映画やドラマのロケ地情報の収集など、京都の映画文化情報発信に向けた調査・研究を実施(22年6月)するとともに、22年度中にホームページへ反映予定</p> <p>○「京都映画祭」、京都・映画誕生100年記念事業(20年10月)の開催、「京都市ロケーションサービス推進協議会」の取組等を進めている。</p> <p>○「京都映画文化会議」の設置(21年11月)、「京都市フィルム・オフィス」の開設(21年12月)</p> <p>○立誠学区における文化芸術による地域のまちづくりモデル事業の中で映画イベントを開催(21年11月26~29日)</p>
73	新規	文化芸術と産業との連携の促進	<p>○22年度、クリエイター人材育成事業を実施</p> <p>○財団法人京都高度技術研究所、京都市が主催の「人材育成事業」を実施 ビジネスに携わる者を対象として、文化芸術の鑑賞方法を考察する研修を京都市美術館において実施することにより、表現力、インスピレーション力、更には芸術的感性や感動を他者に伝えるコミュニケーション力を向上させ、文化芸術と産業界双方の活性化を目指す事業を実施</p> <p>○芸術センター事業として、伝統技術の「わざ」を学びたい美術作家を対象に、伝統技術を学び、体験する場を提供(京都市産業技術研究所との連携事業)。22年度は番外編として「染織基礎講座」等を実施</p> <p>○マンガ、アニメ、映画、ゲーム等のコンテンツ産業の振興を図るため、「京都市コンテンツビジネス研究会」を設置(20年12月)し、振興施策を検討している。(マンガ・アニメ、映画、ゲーム等の個別分野の領域を超えた視点から、更には文化・観光といった側面からも新たな事業展開の可能性・方向性を検討)</p> <p>○「KYOTO CMEX (KYOTO Cross Media Experience)」の開催 マンガ、アニメ、映画、ゲーム等のコンテンツの魅力を国内外に発信するために開催。「京都駅・祇園エリア」、「烏丸御池エリア」、「太秦エリア」の3エリアでマンガ、映画、ゲーム等に関する様々なイベントを実施した。(21年度参加者数:80,600人)</p> <p>○芸術大学リエゾンオフィス(18年6月設置)による事業者からの委託に関する研究および提案</p>

京都文化芸術都市創生計画取組状況について(平成22年10月末現在)

No.	計画時点での新規/非新規	施策名	取組状況
74	新規	文化パートナーの活動の気運を高める取組の推進	「文化ボランティアきょうと」の発行等により文化ボランティアへの参加促進に努めている。・文化パートナーの制度化については検討中
75		市民の文化芸術活動の支援	○京都會館、コンサートホールなどの文化施設について、空き情報をはじめとする施設情報をインターネット上で提供。22年10月から、指定管理者のホームページに、文化會館の平成23年4月以降のホール及び創造活動室の利用可能日(抽選対象日)を掲載し利便性の向上を図る。 ○「京都芸術文化情報リンク集」において、市内の貸館施設等の情報を発信
76		地域文化會館の効果的な運営への市民参加等の推進	各館において利用者アンケートを実施。22年度は、市民窓口アンケートを実施
77		文化芸術を支える基金への、市民や企業等の一層の賛同・協力の促進	○「文化ボランティアきょうと」誌上にて、文化ボランティア基金への寄付を呼びかけている。 ○キャンパス文化パートナー制度の実施を検討中であるが、会費を文化事業基金へ積み立てることとしている。